

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：17701

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K19529

研究課題名（和文）本土と離島の臨床看護師を対象としたバーンアウト耐性形成プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a burnout resistance program for clinical nurses in mainland and remote islands

研究代表者

西本 大策（Nishimoto, Daisaku）

鹿児島大学・医歯学域医学系・助教

研究者番号：80757675

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：鹿児島県の本土と離島の臨床看護師98人を対象とした横断研究で、バーンアウトの発生に影響を与える可能性があるレジリエンスや関連する要因を調査した。一元配置分散分析と多変量重回帰分析を実施し、本土では19.6%、離島では36.1%のバーンアウトの割合が認められ、先天性のレジリエンスを示す資質的レジリエンス要因および職場の先輩のサポートがバーンアウトと負の関連にあることが示された。介入の結果は現在投稿中の論文の掲載後にあらためて報告する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

COVID-19禍に行われた本横断研究において、臨床看護師の資質的レジリエンス要因および職場の先輩のサポートはバーンアウトと負の関連があることが示された。本土と離島の臨床看護師におけるこれらの知見は新規性があり、学術的意義があると考えられる。社会的意義について、資質的レジリエンス要因を指標とした採用や人員配置および教育への活用は臨床看護師がバーンアウトに陥らないことに寄与できる可能性がある。

研究成果の概要（英文）：We conducted a cross-sectional study of 98 clinical nurses in mainland and remote islands of Kagoshima Prefecture to investigate resilience and related factors that may affect the onset of burnout. The study results showed that the incidence of burnout was 19.6% on the mainland and 36.1% on remote islands. The study conducted one-way analysis of variance and multiple regression analysis with burnout as the dependent variable and adjusted for related factors. The results showed that innate resilience and support from older peers in the workplace were negatively associated with burnout. The results of interventions will be reported again after publication of the current paper under review.

研究分野：看護管理

キーワード：バーンアウト レジリエンス 看護師 看護を語る会

1. 研究開始当初の背景

(1) 離島における看護師のバーンアウトの割合は高く、離職や看護の質低下につながる我々は、鹿児島県本土で勤務する看護師のバーンアウトの割合は 45.6%を示し、決して少なくないことを明らかにした¹。バーンアウトは看護の質低下や離職意思につながる^{2,3}。日本看護協会の調査で 2017 年の看護師の離職率は新卒 7.6%、正規雇用 10.9%と高い状況にあった(2018)⁴。今後も看護師不足が続く見通しであり、いかにバーンアウトに陥りにくく、陥ったとしても早期に回復する看護師の育成が必要であった。また、看護師不足は離島へき地で深刻である。離島の看護師はバーンアウトの割合が 53.1%と高いことが示され、離島の看護師においても看護の質の低下や離職を防止するために、バーンアウト耐性を形成することが重要であった⁵。

(2) レジリエンス要因を後天的に獲得できるプログラム開発の必要性

看護師のバーンアウトとレジリエンス要因の研究に関して、横断研究による評価がほとんどであり、縦断研究や介入による評価は行われていなかった。また、バーンアウトの割合が高い離島でのレジリエンスの評価研究はなかった。そのため、バーンアウトとレジリエンス要因との因果関係に基づいたレジリエンス要因を後天的に獲得できるプログラム開発が必要であった。本プログラムを開発することにより、離島へき地を含めた全国の看護師のバーンアウトの割合を低下させ、看護の質の向上や離職を防止することができる可能性があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は臨床看護師のバーンアウト耐性の形成であり、3つの目的から成る。1点目は二次元レジリエンス要因尺度(Bidimensional Resilience Scale:以下、BRS)という一般化されている尺度を用い、後天的に獲得できるレジリエンス要因‘他者心理の理解’がバーンアウト耐性を形成するかどうかを証明することである⁶。2点目は介入により他者心理の理解の獲得を促進できるかどうかを証明することである。3点目は本土とバーンアウトの割合がとくに高いとされる離島と比較することである。また、有効性が証明されれば一般化し、新たなバーンアウト耐性を形成するプログラムの開発につながることに創造性があると考えられる。

3. 研究の方法

横断研究では、臨床看護師 98 名を対象にアンケート用紙を通じて二次元レジリエンス要因尺度、職場のソーシャルサポート尺度⁷、Pines のバーンアウトスケール日本語版⁸、背景要因のデータを収集した。背景要因は²検定、t検定、一元配置分散分析を用いて評価を行った。バーンアウトを従属変数とした多変量重回帰分析では、ステップワイズを用いて独立変数の選択を行った。介入研究については、現在論文投稿中であり、あらためて研究成果報告書で報告する。

4. 研究成果

横断研究の成果を報告する。介入研究の成果においては、現在論文投稿中であり、あらためて研究成果報告書で報告する。

バーンアウトの割合は本土で 19.6%、離島で 36.1%であった(表 1)。解析の結果、資質的レジリエンス要因、獲得的レジリエンス要因、獲得的レジリエンス要因の下位因子の他者心理の理解、職場のソーシャルサポート、およびバーンアウトについて、本土と離島の看護師に有意な差はなかった(表 2)。本土の臨床看護師では、資質的レジリエンス要因(標準偏回帰係数、以下 $\beta = -0.492$ 、 $P < 0.001$)と獲得的レジリエンス要因($\beta = -0.325$ 、 $P = 0.007$)がバーンアウトと負の関連があることが示され、離島の臨床看護師でも資質的レジリエンス要因($\beta = -0.520$ 、 $P = 0.004$)と獲得的レジリエンス要因($\beta = -0.336$ 、 $P = 0.057$)に同様の関連が観察された。一方、他者心理の理解については本土の臨床看護師($\beta = -0.146$ 、 $P = 0.281$)および離島の臨床看護師($\beta = -0.157$ 、 $P = 0.349$)でそれぞれ有意な関連を認めなかった(表 3)。

本土と離島のすべての臨床看護師を対象とした解析において、ステップワイズ法での独立変数の選択を行い、資質的レジリエンス要因($\beta = -0.443$ 、 $P = 0.001$)と職場のソーシャルサポート($\beta = -0.204$ 、 $P = 0.031$)がバーンアウトと負の関連があることが示された(表 4)。また、臨床看護師の離職意向はバーンアウトとの正の関連があった($\beta = 0.025$ 、 $P = 0.021$)。

更なる調査は必要であるが、本土と離島の臨床看護師がバーンアウトに陥らないことに、生来の資質的レジリエンス要因が高いこと、職場の先輩のサポートがより得られることのそれぞれが重要であることが示唆された。

引用文献

1. 西本大策, 李慧瑛, 兒玉慎平: 看護師のバーンアウトに影響を及ぼす二次元レジリエンス要因の分析, 日本職業・災害医学会会誌, 67(1): 38-43, 2019
2. Aiken LH, Clarke SP, Sloane DM, Lake ET, Cheney T. Effects of hospital care environment on patient mortality and nurse outcomes. J Nurs Adm. 2008;38:223-9.
3. Guo YF, Plummer V, Lam L, Wang Y, Cross W, Zhang JP. The effects of resilience and turnover intention on nurses' burnout: Findings from a comparative cross-sectional study. J Clin Nurs. 2019;28:499-508.
4. 日本看護協会: 2018年病院看護実態調査. 2019 [引用 2023 4 15]. <https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/research/94.pdf>
5. 岩永喜久子: 離島中核病院看護職のバーンアウトと関連要因, 日本看護学会論文集 看護管理, 37:61-63, 2006.
6. 平野真理: レジリエンスの資質的要因・獲得的要因の分類の試み 二次元レジリエンス要因尺度 (BRS) の作成. パーソナリティ研究 19 (2) : 94-106, 2010.
7. 小牧一裕, 田中國夫: 職場におけるソーシャルサポートの効果 関西学院大学社会学部紀要, 67, 57-67, 1993.
8. 稲岡文昭: Burnout 現象と Burnout スケールについて. 看護研究 21 (2) : 27-35, 1988.

表 1. ベースライン調査時の対象者の背景

	全体		本土		離島		P†
	n	%	n	%	n	%	
性別, 女性	79	81.4	51	87.9	28	71.8	0.045*
年齢							
20-29 歳	63	65.0	51	87.9	12	30.8	
30-39 歳	29	29.9	6	10.3	23	59.0	< 0.001***
40- 歳	5	5.2	1	1.7	4	10.3	
先輩からのサポート, あり	94	95.9	56	94.9	38	97.4	0.537
離職意思, あり	42	42.9	24	40.7	18	46.2	0.592
バーンアウト	24	26.1	11	19.6	13	36.1	0.079

*P < 0.05. **P < 0.01. ***P < 0.001. † ²test.

表 2. 本土と離島における二次元レジリエンス要因と職場のソーシャルサポートおよびバーンアウトの比較

	全体			本土			離島			P†
	n	平均値 (標準偏差)		n	平均値 (標準偏差)		n	平均値 (標準偏差)		
二次元レジリエンス要因	95	71.62 (10.45)		58	71.21 (9.82)		37	72.27 (11.48)		0.829
資質的レジリエンス要因	96	39.9 (6.73)		58	39.33 (6.44)		38	40.76 (7.16)		0.832
楽観性	98	10.1 (2.53)		59	10.12 (2.65)		39	10.08 (2.37)		0.344
統御力	98	10.29 (2.08)		59	10.17 (1.97)		39	10.46 (2.25)		0.237
社会性	96	9.11 (2.51)		58	8.78 (2.31)		38	9.63 (2.75)		0.529
行動力	98	10.49 (2.23)		59	10.37 (2.25)		39	10.67 (2.22)		0.410
獲得的レジリエンス要因	97	31.8 (4.60)		59	31.95 (4.24)		38	31.58 (5.16)		0.237
問題解決志向	97	10.11 (2.19)		59	10.15 (2.20)		38	10.05 (2.22)		0.469
自己理解	98	10.78 (1.90)		59	10.78 (1.89)		39	10.77 (1.93)		0.270
他者心理の理解	98	10.89 (1.83)		59	11.02 (1.57)		39	10.69 (2.17)		0.357
バーンアウト	92	3.43 (1.01)		56	3.29 (0.84)		36	3.65 (1.21)		0.051
職場のソーシャルサポート	98	56.94 (10.45)		59	57.66 (10.69)		39	55.85 (10.12)		0.336

†性別と年齢で調整した ANOVA.

表3. パーンアウトと二次元レジリエンス要因、職場のソーシャルサポートとの関連

	本土				離島					
	<i>n</i>	標準偏回帰係数	95%信頼区間		<i>P</i> [†]	<i>n</i>	標準偏回帰係数	95%信頼区間		<i>P</i> [†]
二次元レジリエンス要因	53	-0.446	-0.667	-0.225	< 0.001 ^{***}	35	-0.471	-0.809	-0.133	0.008 ^{**}
資質的レジリエンス要因	53	-0.492	-0.713	0.271	< 0.001 ^{***}	35	-0.520	-0.861	-0.179	0.004 ^{**}
楽観性	54	-0.270	-0.502	-0.038	0.023 [*]	36	-0.383	-0.836	0.071	0.096
統御力	54	-0.259	-0.494	-0.024	0.031 [*]	36	-0.591	-0.914	-0.268	0.001 ^{**}
社会性	53	-0.519	-0.748	-0.291	< 0.001 ^{***}	35	-0.034	-0.417	0.349	0.858
行動力	54	-0.318	-0.555	-0.081	0.010 [*]	36	-0.543	-0.879	-0.206	0.002 ^{**}
獲得的レジリエンス要因	54	-0.325	-0.559	-0.092	0.007 ^{**}	36	-0.336	-0.683	0.010	0.057
問題解決志向	54	-0.203	-0.424	0.019	0.072	36	-0.253	-0.660	0.155	0.216
自己理解	54	-0.347	-0.564	-0.131	0.002 ^{**}	36	-0.476	-0.829	-0.123	0.010 [*]
他者心理の理解	54	-0.146	-0.416	0.123	0.281	36	-0.157	-0.495	0.180	0.349
職場のソーシャルサポート	54	-0.492	-0.693	-0.292	< 0.001 ^{***}	36	-0.142	-0.560	0.277	0.496

P* < 0.05. *P* < 0.01. ****P* < 0.001. †性別と年齢で調整を行った多変量重回帰分析.

表4. パーンアウトと資質的レジリエンス要因、獲得的レジリエンス要因、職場のソーシャルサポートおよび離職意思との関連

	全体 (<i>n</i> = 88)			
	標準偏回帰係数	95%信頼区間		<i>P</i> [†]
獲得的レジリエンス要因	-0.443	-0.696	-0.189	0.001 ^{**}
資質的レジリエンス要因	0.134	-0.109	0.376	0.276
職場の先輩のサポート	-0.204	-0.389	-0.019	0.031 [*]
離職意思	0.025	0.035	0.414	0.021 [*]

(Adj R-squared 0.319)

P* < 0.05. *P* < 0.01. ****P* < 0.001. †性別と年齢および地域で調整した多変量重回帰分析.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Daisaku Nishimoto, Mine Imajo, Shimpei Kodama, Ippei Shimoshikiryo, Rie Ibusuki, Yasuhito Nerome, Toshiro Takezaki, Ikuko Nishio	4. 巻 65
2. 論文標題 The effects of resilience and related factors on burnout in clinical nurses, Kagoshima, Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Yonago Acta Medica	6. 最初と最後の頁 148-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.33160/yam.2022.05.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Daisaku Nishimoto, Mine Imajo, Michiko Ochiai, Shimpei Kodama, Yasuhito Nerome, Ikuko Nishio, Toshiro Takezaki
2. 発表標題 Association between bidimensional resilience and social support, and burnout among clinical nurses.
3. 学会等名 ICN Congress（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西本大策, 兒玉慎平, 下敷領一平, 指宿りえ, 根路銘安仁, 西尾育子, 嶽崎俊郎
2. 発表標題 臨床看護師のバーンアウトに対するレジリエンスへの介入研究
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西本大策, 兒玉慎平, 下敷領一平, 指宿りえ, 根路銘安仁, 西尾育子, 嶽崎俊郎
2. 発表標題 臨床看護師のバーンアウトとレジリエンスの関連 - 本土と離島の地域差について
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西本大策、兒玉慎平、下敷領一平、指宿りえ、根路銘安仁、西尾育子、嶽崎俊郎
2. 発表標題 看護師におけるバーンアウトとレジリエンスに対する介入試験後の変化に関する研究
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関